

第65回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1997年10月7日（火）10:30～11:45

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
（事務局等）伊藤原子力調査室長
池本専門委員
森口動力炉開発課長
瀬山国際協力・保障措置課長
国際協力・保障措置課 永井
原子力調査室 杉本、新井、仙石

4. 議 題

- （1）動力炉・核燃料開発事業団東海事業所のウラン廃棄物貯蔵ピットに係る業務状況調査結果について
- （2）加藤政務次官の第41回IAEA総会出席等について
- （3）田畑委員の海外出張報告について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料1 第64回原子力委員会定例会議議事録（案）
資料2 動力炉・核燃料開発事業団東海事業所のウラン廃棄物貯蔵ピットに係る業務状況調査結果について
資料3 加藤政務次官の第41回IAEA総会出席等について
資料4 田畑委員の海外出張報告について

6. 審議事項

- （1）議事録の確認
事務局作成の資料1第64回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
- （2）動力炉・核燃料開発事業団東海事業所のウラン廃棄物貯蔵ピットに係る業務状況調査結果について
標記の件について、事務局より資料2に基づき、予算執行状況、ウラン貯蔵ピットに係る諸問題等の調査結果、業務状況調査から得られた問題点及び改善すべき措置等について報告があった。
これに対し、委員より
・継続的なプロジェクトについては途中で計画が変更になり得るものであり、チェックする体制を整えていくことが大切
・予算はある程度フレキシブルに執行されるものではあるが、許容範囲の認識が内と外とでギャップがあることが問題
・現場においては予算を有効に使うべく考えることは大切だが、予算要求と執行が乖離するのは当然との認識があるとすれば、改めねばならない
・作業を極力目立たないよう進めることや別途作業目的を説明できるよう指示があったことは、最も基本的な、人に対する信頼を失わせるという意味で大変残念なこと
・経営の論理をはたらかせていくことが今後必要

- ・新法人設立に関する作業のうち、裁量権の範囲の検討などに影響を与えるのではない
 - ・裁量権と内部チェック機構は表裏の関係であり、同一組織の中でバランスさせることが重要
- 等の意見があった。

(3) 加藤政務次官の第41回IAEA総会出席等について

標記の件について、事務局より資料3に基づき、1997年9月29日(月)から開催された第41回IAEA総会における政府代表演説の概要及び要人との会談の概要について報告があった。

また、田畑委員より、

- ・IAEAの今後の活動について、原子力以外の周辺領域との交流を進め、より開かれた組織としていく姿勢が強く感じられた
- ・米国とロシアに関しては、核兵器解体により発生する核物質を、具体的数値を示しつつ、IAEAの査察下に置くことについて前向きに取り組んでいるとの印象を受けた

等の補足意見があった。

(4) 田畑委員の海外出張報告について

標記の件について、事務局より資料4に基づき、田畑委員が1997年9月25日(木)から10月4日(土)までの間、IAEA総会に出席するとともに、ラザフォード・アップルトン研究所、サクレ研究所を視察した旨報告があった。

また、田畑委員より補足として、フランスの原子力の状況について、

- ・高速中性子炉をいくつか作ることを考えていること
- ・MOX燃料のリサイクル回数を増やすと、地上での冷却期間をより長期にする必要があること
- ・放射性廃棄物から有用物質を取り出すことを考えていること
- ・基礎研究を重視していること
- ・複数の照射炉の更新が具体的に予定され、また、加速器については旧来のものに代えて新しいものをつくることが計画されていること
- ・資源がなく原子力が重要と考えており日仏間には共通点が多いこと
- ・原子力関係の研究所で技術移転や民営化に積極的に取り組んでいること

等が紹介された。